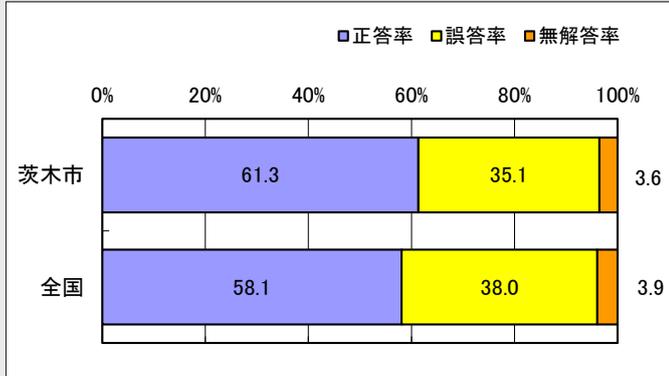


正答率比較

平均正答率は、全国を3.2ポイント上回った

令和6年度 中学校国語 正答率等比較

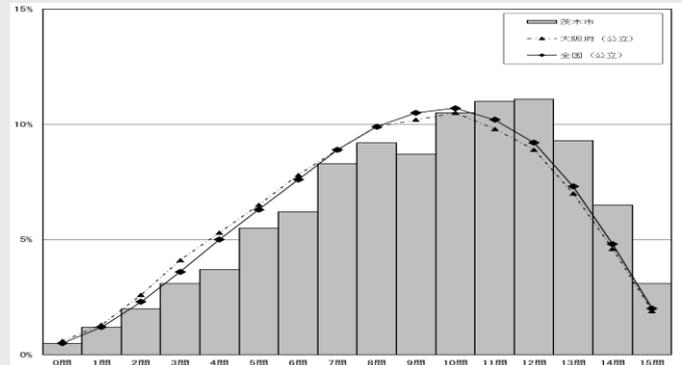


- ◆ 全国の平均正答率が 58.1%であるのに対し、茨木市では 61.3%で、全国を 3.2 ポイント上回った。
- ◆ 誤答率については、全国より 2.9 ポイント低い。
- ◆ 無解答率については、全国より 0.3 ポイント低い。

正答数分布

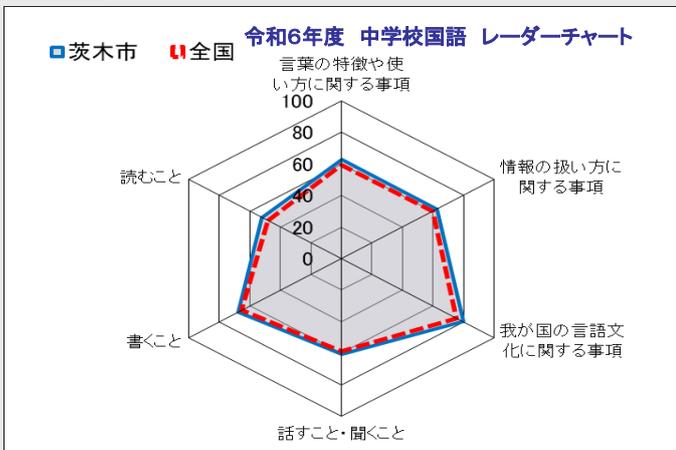
学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である

令和6年度 中学校国語 正答数分布グラフ



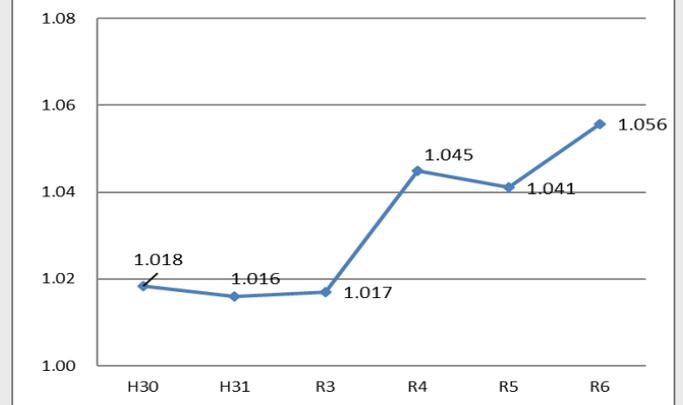
- ◆ 全国は 10 問、茨木市は 12 問正解の生徒の割合が最も多い。
- ◆ 正答率 40%以下(0~6問正解)の生徒の割合は 22.2%である。(内 20%以下(0~3問正解)の生徒の割合は 6.8%)
- ◆ 正答率 80%以上(12~15問正解)の生徒の割合は 30.0%である。

領域別



正答率経年比較

過去5年の正答率の推移(対全国比)



課題があった設問

説明文を読んで、選択した内容について要約する(正答率 46.8%)

② 四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで(どちらを選んでもかまいません。)要約しなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。

イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

【正答例】

ア:葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

イ:数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

【葉の形について書かれた文章】

葉の形は多岐にわたる。その中でも、最も基本的な形は楕円形である。楕円形の葉は、光を効率的に吸収し、水分の蒸散を抑えるという利点がある。一方、針形や糸形の葉は、乾燥した環境に適応した形であり、水分の蒸散を極端に抑える役割を果たしている。また、葉の縁の形も多様で、鋸歯状の葉は昆虫の食害を防ぐという説がある。葉の形は、植物の生存戦略を巧みに示していると言える。

【正答の条件】

- ① アとイのいずれかの〈着目する内容〉を選んで、その記号を塗りつぶしている。
- ② 選んだ〈着目する内容〉について、必要な情報を適切に取り上げて書いている。
- ③ 選んだ〈着目する内容〉について、まとめて書いている。

【誤答例】

ア：筆者は、葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分けている。

イ：筆者は、数学や物理学、それに化学の一部は、普遍性の学問だと述べている。

	解答類型	反応率 (%)	正答
1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	46.8	◎
2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	
3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	34.0	
4	上記以外の解答	10.1	
5	無解答	9.2	

【この問題で求められている力】

目的に応じて必要な情報に着目して要約する力

☆解答類型3(34.0%)に当てはまる誤答が多かったことから、自分を取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていないということが分析できる。自分が要約した内容に必要な情報を含めることができているかどうかの判断に課題があると考えられる。

→目的を明確にした上で、必要な情報が含まれているか、自分がまとめた内容と元の文章の内容に隔たりがないかなどを確認しながら、適切に要約する活動を積み重ねることで力を伸ばすことができる。

【国語についての今後の指導のポイントとして】

活動の目的、相手、場面、状況等を踏まえつつ、課題を「自分ごと」としてとらえ、それらを念頭に置きながら考える力の育成をめざす。

子どもたちは、日常生活の中で、話す、聞く、書く、読むなどのときは、目的意識や相手意識をもっている。こういった「目的」を授業においても活動の核に位置づけ、子どもたちが「自分ごと」としてとらえることができる課題を設定していくことで、見通しをもって、主体的に活動し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことにつながる。

このような魅力的な言語活動の設定や資質能力を育成する単元計画の好事例を、言語力向上に取り組むモデル校等から各学校へ広げていく。また、学校図書館教育や、調べ学習等の取組みを引き続き継続・充実していく。